

LOBO

業況改善は足踏み

日本商工会議所が発表した2月の全産業合計の業況DIは▼24・0と、前月から▼1・0ポイントの悪化。

大雪など天候不順による客足減少や消費者の節約志向、人手不足の影響などにより、サービス業・卸売業の売上が減少した。また、建設業や製造業を中心に原材料や燃料の値上りを指摘する声が聞かれた。中小企業の景況感は電子部品、自動車関連の生産や住宅など民間工事の底堅い動きに下支えされているものの、改善に向けた動きは足踏み状況となっている。

業種別にみると、建設業は、鉄鋼、木材などの資材や燃料の価格上昇がみられたものの、住宅投資の底堅さを指摘する声があり改善。製造業は、電子部品、自動車関連の堅調な動きの一方、原材料の値上りを受けて工作機械や金属製品関連が振るわず悪化している。

卸売業は、地域によりばらつきがあるものの、水産物価格の高騰が続くほか、個人消費の低迷から売上が伸びないとの声も聞かれ悪化。小売業は改善だが実体はほぼ横ばい。消費者の節約志向が依然として強く、

高額品販売は苦戦しているものの、インバウンド需要が客数の増加により堅調に推移した。レンタイン商戦が好調だったとの声も聞かれた。

サービス業は、ソフトウェア業の受注が好調なもの、宿泊業においては人手不足や人件費上昇が足かせとなる中、大雪、寒波といった天候不順により客足が減少し、ほぼ横ばい。西日本の日本海側などでは記録的な大雪により物流が混乱しているとの声もあった。

先行きについては、先行き見通しDIが▼16・7（今月比+7・3ポイント）と改善を見込むものの、インバウンドを含む消費の拡大や設備投資の増加、海外経済の回復に加え、プレミアムフライデーを契機とする個人消費の喚起に期待する声も聞かれた。他方、消費の一段の悪化や人手不足の影響拡大、米国大統領の政策の不透明感、原材料・燃料価格の上昇による収益悪化などへの懸念から、業況感は横ばい圏内との見方が続く。

（当所を含む全国423商工会議所の2985の企業にヒヤリング）